

経済・金融 フラッシュ

1月 BOE 金融政策委員会：金融政策は現状維持

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

イングランド銀行(BOE)は、12日、13日に開催した1月の金融政策委員会(MPC)で政策金利の0.5%での据え置きと資産買い取り(量的緩和)残高の2000億ポンドでの維持を決めた。今回も票決は3つに割れたが、利上げ派、量的緩和拡大派ともに支持は広がらなかったと思われる。

次回MPCの議論の叩き台となる2月「インフレ報告」は、次の政策変更は「例外的な金融緩和の見直し」となることを示唆しつつも、不確実性の高さも強調される見込み。MPCはインフレ・リスクへの警戒を強めながらも、なおしばらく様子見は続けることになるだろう。

(政策金利の据え置き、資産買い取り残高も維持)

イングランド銀行(BOE)は、12日、13日に開催した1月の金融政策委員会(MPC)で政策金利の0.5%での据え置きと資産買い取り(量的緩和)残高の2000億ポンドでの維持を決めた。BOEは政策金利を2009年3月以来、0.5%で据え置いており、量的緩和の残高も、2010年1月に2000億ポンドに達した後、維持している。

政策変更の見送りは長期にわたっているが、MPCの9人の委員のうち、センタンス委員は6月から12月まで7カ月連続で0.25%の利上げと量的緩和の残高維持という「例外的な金融緩和の見直しの着手」を主張、逆にポーゼン委員は10月から12月まで3カ月連続で政策金利の据え置きと500億ポンドの量的緩和拡大による「追加的な金融緩和」を主張している。

足もとの景気は長期平均を上回るペースで回復し(図表2)、インフレ率は目標を上回る水準で推移しているが(図表3)、大幅な需給ギャップが残り、住宅市場の回復ペースは鈍っている(図表4)。イギリス経済と結びつきが強いユーロ圏の信用不安も続いている。

今回の評決の内訳は、今月26日の議事録公表まで明らかにならないが、利上げ派、量的緩和拡大派ともに票を伸ばすことはなく、上振れリスクと下振れリスク両睨みの据え置きが大勢を占めたものと思われる。

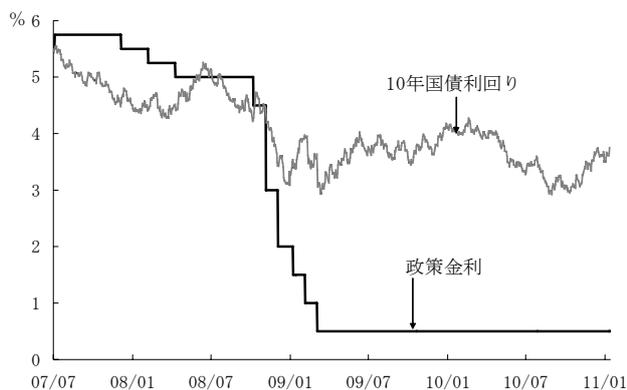
(政策金利の据え置き、資産買い取り残高も維持)

次回2月のMPCは四半期に一度公表の「インフレ報告」が議論のたたき台となる。前回11月号の見通しは2000億ポンドの量的緩和の残高維持と2011年後半以降の極めて緩やかな利上げという想定で、インフレのリスクは「バランス」しているというものであった。その後の経済指標やサーベイ調査では、PMIなど製造業を中心とする景気回復基調の持続の一方、国際商品価格の上

昇、1月4日から実施された付加価値税率（VAT）の引き上げ（17.5%→20.0%）など、インフレ率が一段と上振れ、インフレ目標を1%以上上回る状態がさらに長びく可能性が高まっており、インフレ期待が上振れるリスクも高まっている。

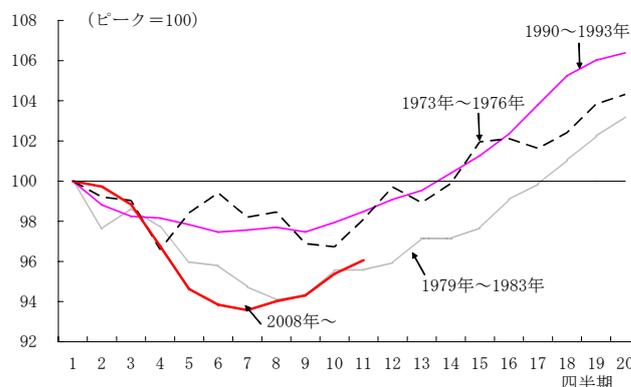
2月の「インフレ報告」の内容は、次の政策変更は「追加的な金融緩和」よりは「例外的な金融緩和の見直し」となることを示唆しつつも、緊縮財政政策やユーロ圏の信用不安の影響など不確実性の高さも強調される見込みである。MPCのインフレ・リスクへの警戒を強めながらも、様子見はなおしばらく続くことになるだろう。

図表1 BOE政策金利と10年国債利回り



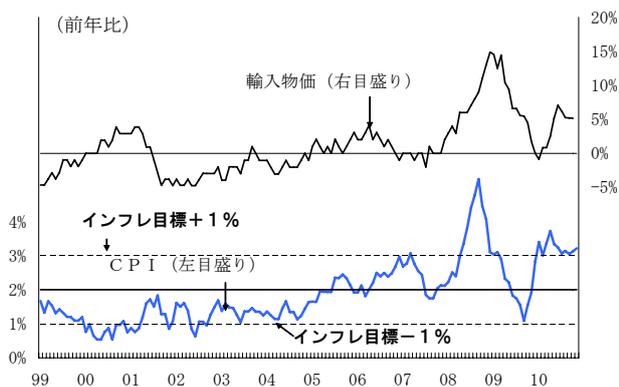
(資料) BOE、Datastream

図表2 過去の景気後退局面における実質GDPの推移



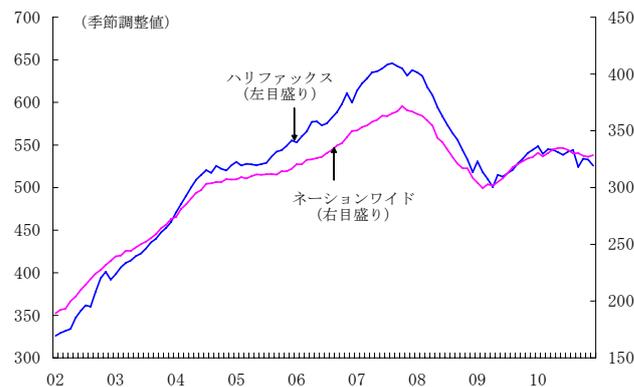
(資料) ONS

図表3 インフレ率の推移



(資料) ONS

図表4 住宅価格指数の推移



(資料) BOE 「インフレ報告」11月号

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。